



始一多院有^テ此^テ院不可^レ説物也。式^ノ日本記^ニと
論言^ヲ号^ト日本記^ノ序^ニ云^ク。誠^ニ諸道^ノ諸^ノ執^ノ皆^ノ能^ク
以^テ一篇^ニ不可^レ説^ル未曾^レ有^ル下^ニ説^ク源氏^ノ奇^ノハ^ハ奇^ノ也^{ナリ}
狭^キ衣^ノ奇^ノハ^ハ独^ニ多^クれ^ト云^フ人^ノ多^クと云^フ以^テ糸^ノ心^ノ流^ル
法^ノ務^ノ事^也更^ニ非^ズ同^ニ日^ニ論^ニ議^ス狭^キ衣^ノ奇^ノと^ハ奇^ノ不^レ
奇^ノ道^ハ知^ル不^レ知^ル水^ノ火^ノ者^也源氏^ノ奇^ノハ^ハ奇^ノ也^{ナリ}
是^ハ何^ノ人^ノ及^ビ之^ノ事^也三^ノ作^ノ板^也以^テ虚^ニ云^フ盡^ク優^ク
是^ハ又^ハ何^ノ人^ノ及^ビ之^ノ事^也三^ノ作^ノ板^也以^テ虚^ニ云^フ盡^ク優^ク

是^ハ我^ノ朝^ノ寂^ノ也^{ナリ}。誠^ニ更^ニ作^ル人^ノ之^ノ不^レ為^ル物^也未^レ知^ル子^ノ
細^ク之^ノ事^也不可^レ奇^ノ是^ハ也^{ナリ}。右^ノ今^ノ後^ニ撰^ル為^ル大^ノ意^也時^ニ
ハ^ハ則^チ一^ノ系^ノ院^はと^ハ之^ノ行^ク非^ズ普^ク通^ノ物^也狭^キ
河^ノ海^ノ序^云。光^ノ源^氏ハ^ハ寛^ノ弘^一系^ノ院^の事^也。略^シ之^ヲ
一^ノ月^抄云^ク。此^ノ事^のあ^るり^の切^り。説^クと^ハわ^ると^ハ以^テ
とも。西^ノ宮^ノ左^ノ大^ノ臣^{。安}和^二年^{。太}宰^格仲^ノ左^ノ進^{。如}
を^レし^テ法^シら^バ友^ニ或^シ。あ^ると^ハく^ると^ハる^れを^レり^{。て}
て^ハひ^らび^とを^レる^に。大^ノ女^ノ院^{。選}子^ノ内^ノ親^王。う^らや^と上^{。三}

加多しとくち也と云々。誠は志臣の交仁義の好
色の媒チカキホトカ菩提の縁エよりくるまで。是とのまじり
りともちり。其のまじり。莊子の寓言カクダクある
ト云ふあり。詞の妖艶ヨウエンさへは教ある。一可の
中よ。世のこのまじりてくるるあり。
若式アの名とあつて。若式アと号せられ
きり。一説云。若式アの名出ユタまらう守とて。後よ
衆のよれのまじりゆりよ。世のまじりあつてあ
らうと云々。或説云。一条院のほめれこのまじり
東門院まじりてくるるくると。我ゆりつれあり

了あまれと云々。若式アと号せられふらうとて。い
名あり。武藏ムサシの養ちりともいひ
一物活の時代の醍醐タケゴ朱萑スサク村上。三代は准すジシ欽
相キリツホ龜内門の延喜。朱萑院ハ。天慶。冷泉院ハ
天曆リヤク光源氏ハ西宮。左大臣。おはすも
一照宣テウケン公の母。寛平法皇。皇女延喜の帝。此
の妹也。後任大臣。母も。相龜内門の一統ヒト服ハラとあり。
以外其の流あり。斯老シヤウ云。昔は准授ジシキウ誠マコトよ
也。あると云ふこと。い物活ハ。光源氏とひの守
取決カクされ。西宮。左大臣。准ジシすこと。一世の源

氏左遷の注は日一れども後好美の先
達といふてさうさるあや。今の物後ハ殊ハ
通シむとて後。各日流るものころなる人。
大細ハ其人のせむらひあれども。好美ハ
も。あつからんとしてくはれと模するところ。漢
朝の書籍春秋史記あるといふ。實際もと
か有。吳同致

一相兼帝。冷泉院と。延長天曆よりすくへな
か。或唐の玄宗のころとありとひと。或ハ泰
始皇のころなる例とあり。又天慶は門ハ相

續の如し。瀧あつてまゝと。びとのがかりゆは
朱雀院のゆ子今上。冷泉院の後なり。或は曰
作者意。光源氏とて。安和のた府ハ比をとい
へども。好美のころハ通の先達ありゆへハ。申
將の風と。さうらびて。五條二条の后を。應重ハ
女院。藤原の尚侍よりすくへ。或は。この少
將のそとありと。切なり。又上。天皇ハ。さうら
漢家ハ。はたる。の旧躰。本朝ハ。是。壁王。系
先。蹴と。模する。後。是。作物。注の。お。也。と。い
ゆ。は。つ。れ。の。内。時。より。と。て。か。め。は。書。あ。ら。は。さ。と。

系とはある也。乃去下ゆは延喜の成時と云ふと
 少り。比外或ハ桓武。一条院と相違内門と
 准じ。又内大臣保元云と。光源氏ハ概もるも
 一系もる之後。以テ誤説也。若桓武と云ふ
 其ハ後の帝王。陽成守多延喜の成物。流
 あり。一条院ちれば延喜あるは後み。成の中
 尺さす。其上流行。流も。比比ぶ。ささる。千
 枝つ。のつとも。ある。朱萑村上の成世の書。聖
 也。比比と云ふ。一条院まで。な。生。守。又延喜
 の卷。朱萑院と。南。下。の由。載。之。云。是。延。喜。取

一は物流。流本一や。さ。さ。さ。流。行。成。郷。自。景
 の本。と。悉。今。世。は。傳。り。守。流。光。行。ハ。本。と。是
 校合取捨。と。て。家。本。と。さ。る。一。照。謂。二。系。帥。侍
 房。本。冷。泉。中。納。云。初。隆。本。堀。川。左。大臣。後
 房。本。号。黄。表。紙。一。位。藤。原。子。本。土。内。有。其。法
 性。寺。開。白。本。唐。紙。小。双。子。号。高。侍。及。中。一。五。系。三。位。後。成。本。京。後
 中。納。云。定。家。本。号。青。表。紙。等。也。各。雖。流。本。皆。有
 異。同。程。勅。合。古。本。且。可。加。了。見。者。耶。善。言。者
 後。之。古。今。之。美。云。也
 一黄表紙。後成。青表紙。定家。二系家。因。之

田は奇よと河よと名をよむと成名とせり。天竺
の教よ四諦法門よ。一は空門。二は空門。三は
亦有亦空門。四は非空非空門也。一切の教
は。四諦よ出づ。されよるや。故四諦外別立
法性とも尺せり。真實の通理。公教の旨に
あるべしと名のちり

二卷桐壺 河を名とせり

桐壺ハ津景舎也。け取曹司くらにらるや。
光源氏の母御息所と。桐壺更衣と。仍
卷名とせり。一名壺外裁河はまへの所が

らんぶの盛ちりとあつ

二卷帚木 うこと名とせり

らんぶの盛ちりとあつ
并一室蟬 繼のちしびせ并と名とせり

を蟬のまはへてびせ并ははなれ今しはるうしとせり
卷の并れと。はつ分の地法中との并。春日
系又中吹上卷并 兼使らとあり。後
のとれごりやと。并一帖あり。しおの削
凡并の極一偏よ同時のくくもみ守。横
縦を同は。さびかるとは是を

十又アサ橙ダイ 奇オキのノまマばバどトをヲいイまマす

十ト六ロクしシ女メ 奇オキとト同ドウとトをヲいイまマす

十ト七シチ玉タマ豊トヨ 奇オキとトをヲいイまマす

十ト八ハチ 奇オキとトをヲいイまマす

十ト九ク 奇オキとトをヲいイまマす

十ト 奇オキとトをヲいイまマす

并ナヒ之ノ蠟ロウ 繼ツグのノちチへヘびビせセ 奇オキのノちチへヘびビせセ

并ナヒ四シ常ジョウ友ユウ 繼ツグのノちチへヘびビせセ 奇オキのノちチへヘびビせセ

并ナヒ五ゴ箇カク火カ 繼ツグのノちチへヘびビせセ 奇オキのノちチへヘびビせセ

并ナヒ六ロク 繼ツグのノちチへヘびビせセ 奇オキのノちチへヘびビせセ

并ナヒ七シチ 繼ツグのノちチへヘびビせセ 奇オキのノちチへヘびビせセ

ちチへヘびビせセ 奇オキのノちチへヘびビせセ

なまがら小諸のまきりしとてはしき舟ぞの米
吹五蜻蛉 カガ うらひとてはしきとてはし
あはれとてはしきとてはしきとてはし
吹六 テハ 蜻蛉 カガ とてはしきとてはし
てちしきとてはしきとてはしきとてはし

吹七 ユメ 渡橋 カガ

花名 ユメ 渡橋 カガ 花名 ユメ 渡橋 カガ
さうとてはしきとてはしきとてはしき
てはしきとてはしきとてはしきとてはしき
中 ユメ 渡橋 カガ 中 ユメ 渡橋 カガ

てはしきとてはしきとてはしきとてはしき
海 ユメ 渡橋 カガ 海 ユメ 渡橋 カガ
の ユメ 渡橋 カガ の ユメ 渡橋 カガ
ち ユメ 渡橋 カガ ち ユメ 渡橋 カガ
と ユメ 渡橋 カガ と ユメ 渡橋 カガ
と ユメ 渡橋 カガ と ユメ 渡橋 カガ

源氏凡下卷第一

一づれの^{まろく}内付^{まろく}より 以^{あま}教^{しん}端^んの^{そと}辞^{そと}甚^た深^か也^{なり}。先^ま作^らを^し
歌^{うた}を^たた^たむ^むる^るふ^ふま^まは^はま^まり^り。卷^まを^まけ^け始^は終^はま^まと^とま^まれ^れ
延^のび^のつ^つと^と傳^はへ^への^の罪^はと^とお^おさ^さる^るん^んな^な也^{なり}。延^のび^の表^はの^の内^の門^の
乃^の内^の付^のの^の更^の也^{なり}。伊^い勢^せ集^じの^の路^の中^のも^もづ^づれ^れの^の内^の付^の
つ^つま^まり^りん^んは^は内^の付^のと^とま^まり^り

一と 云^いふ^ふ也^{なり} 一と^いふ^ふの^の分^の分^のう^うあ^ある^るま^ま
て^て桐^き葉^はの^の更^の交^のは^は母^の人^のと^とま^まり^りあ^あら^らん^ん也^{なり}。一^いと^とあ^あら^らん^ん
縁^えら^らん^ん也^{なり} 一^いと^とあ^あら^らん^んと^と 早^いッ^ッ早^い也^{なり}

一ハ助^{すけ}浩^{こう}

一と^いふ^ふ 謙^{けん}也^{なり} 禁^{きん}制^{せい}乃^の

心

一と^いふ^ふ 心^{こころ}也^{なり}

一と^いふ^ふの^の内^の付^の 一と^いふ^ふの^の内^の付^のは^は内^の付^の也^{なり}。

又^{また}長^{なが}也^{なり}。内^の付^のに^にあ^あら^らん^んべ^べし

一と^いふ^ふ人^の名^の也^{なり}。一と^いふ^ふの^の内^の付^のは^は内^の付^の也^{なり}。

一と^いふ^ふ。花^{はな}も^もの^の心^の也^{なり}。一と^いふ^ふの^の内^の付^のは^は内^の付^の也^{なり}。

一と^いふ^ふの^の内^の付^のは^は内^の付^の也^{なり}。一と^いふ^ふの^の内^の付^のは^は内^の付^の也^{なり}。

一と^いふ^ふの^の内^の付^のは^は内^の付^の也^{なり}。一と^いふ^ふの^の内^の付^のは^は内^の付^の也^{なり}。

一と^いふ^ふの^の内^の付^のは^は内^の付^の也^{なり}。一と^いふ^ふの^の内^の付^のは^は内^の付^の也^{なり}。

男女^{おとこ}た^たま^まの^の昇^{のぼ}り^り後^{のち}の^の人^のと^とま^まり^り也^{なり}。

凡^{たゞ}下^げ

一と^いふ^ふ

五色幣あり

一歌をえもれ 離家

三月月落涙百千行 一いつのあがり ぬ湯也

一石山 聖武天皇内宮 金就鷲仙人建立也

一さうくねおとのつきく ちんぬひおくらさあ

狩櫛ぬひおとともく 中と深ともすも也

一いつしめそ ころくはくくめちすも也

一いつくくり 張騫漢武帝使として 構り

て天漢の源を究めて 孟津よりして

女よ遊てゆくとあひくより

一いつくおハ 小井 日本記とこれあがりハ尼志を

さうてのあも也

二世の源氏 源氏と初て

あふと二世の源氏と云也。二世源氏任官已後即位

例 光仁天皇。元大納言は外多略也

一いつしよりハの終さうつ ちつがのこもや一洗

秋好まふとけ終也 一いつりも一いつりハ海

ゆく真とれま也 秋力のうさもとさふい

一いつしよ 舟のうらとを海生のさうり ちまふも

一いつしよ 眞睡 一家ふるおまのこも

備長也 一いつしよ 一いつしよ 一いつしよ

ふのされらるとあゆけを移ぬり

三十一

三十一

一 禪心也 ツテラス

出先照高山心也

おとと云

衆人熙熙如登春臺 註熙熙也

一 衆人熙熙如登春臺 註熙熙也

一 衆人熙熙如登春臺 註熙熙也

一 衆人熙熙如登春臺 註熙熙也

一 衆人熙熙如登春臺 註熙熙也

一 衆人熙熙如登春臺 註熙熙也

一 衆人熙熙如登春臺 註熙熙也

一 衆人熙熙如登春臺 註熙熙也

一 衆人熙熙如登春臺 註熙熙也

一 衆人熙熙如登春臺 註熙熙也

一 衆人熙熙如登春臺 註熙熙也

一 衆人熙熙如登春臺 註熙熙也

一 衆人熙熙如登春臺 註熙熙也

一 衆人熙熙如登春臺 註熙熙也

一 衆人熙熙如登春臺 註熙熙也

一 衆人熙熙如登春臺 註熙熙也

一 衆人熙熙如登春臺 註熙熙也

一 衆人熙熙如登春臺 註熙熙也

一 衆人熙熙如登春臺 註熙熙也

一 衆人熙熙如登春臺 註熙熙也

一 衆人熙熙如登春臺 註熙熙也

一 衆人熙熙如登春臺 註熙熙也

一 衆人熙熙如登春臺 註熙熙也

一 衆人熙熙如登春臺 註熙熙也

一 衆人熙熙如登春臺 註熙熙也

一 衆人熙熙如登春臺 註熙熙也

冬之夜池蓮夏用宮槐秋落長恨奇信

一白雲のちるふがー 女人身ヲに五障ニ者ヲ不得ス

一飛ハル梵天王ハ二者帝釈ハ三者魔王ハ四者轉輪聖王ハ

五者佛身 一といひのふらり所謂

一いふまじくあぢうし守ん也

一いふ日とく人も 遷城未陵王とあやまんを

史記云魯陽ハ一戈退ス落日ト

一いらくさぎを神也。名もくぐ心

一いふらりる浅茅 一あさらのちけらるるとして船ヲの

一他とあひやると也 一いふらりるらるの船ヲ也

一いふららるまの舞ハあへてくともいふ

一いふららるあはる船ハ老の家とあり

一いふららるい 一いふららる也

一いふららるい 一いふららる也

一いふららるい 一いふららる也

一いふららるい 一いふららる也

一いふららるい 一いふららる也

一いふららるい 一いふららる也

一いふららるい 一いふららる也

一場もよま宮坊 職員令所門はちくも終ふ
 一はつとまま交る也 一はつとまめくも
 けいごもとちくもむらん 鬼鬼 日本記
 一はつとまのま 皇子三歳少く 袴着の別冷泉
 院天曆四年七月廿三日 東交の時に外多し女
 人のと同 一はつとま 毎及 毎暮
 一はつとまのま 皇子三歳少く 袴着の別冷泉
 院天曆四年七月廿三日 東交の時に外多し女
 人のと同 一はつとま 毎及 毎暮
 一はつとまのま 皇子三歳少く 袴着の別冷泉
 院天曆四年七月廿三日 東交の時に外多し女
 人のと同 一はつとま 毎及 毎暮

一はつとまのま 皇子三歳少く 袴着の別冷泉
 院天曆四年七月廿三日 東交の時に外多し女
 人のと同 一はつとま 毎及 毎暮
 一はつとまのま 皇子三歳少く 袴着の別冷泉
 院天曆四年七月廿三日 東交の時に外多し女
 人のと同 一はつとま 毎及 毎暮
 一はつとまのま 皇子三歳少く 袴着の別冷泉
 院天曆四年七月廿三日 東交の時に外多し女
 人のと同 一はつとま 毎及 毎暮
 一はつとまのま 皇子三歳少く 袴着の別冷泉
 院天曆四年七月廿三日 東交の時に外多し女
 人のと同 一はつとま 毎及 毎暮

一はつとまのま 皇子三歳少く 袴着の別冷泉
 院天曆四年七月廿三日 東交の時に外多し女
 人のと同 一はつとま 毎及 毎暮

一はつとまのま 皇子三歳少く 袴着の別冷泉
 院天曆四年七月廿三日 東交の時に外多し女
 人のと同 一はつとま 毎及 毎暮

東海有黒齒國其俗婦人齒悉黒也今案
日本東海の中は國也皮俗はるふも昔とい
とさるに女のたなるくうぬと付さればたけのつむ
るのちりつてきて其の形悉と十歳はあきらま
む齒黠りもちりつてし

一はげぐし 仁和寺の初奉次幸八条院
初寄所樂之伎初造階級多々見吏戸王記
慶六年也今案南階の乃は柱と二つくよよ
ささぐりしむくくあそ風筆をひんがしむた
ことよきてたのよれよと案下はわんこあ也

一花のうらなはよ花もうらぬのやれえ花のさ
つれえし本のあうよんはとまづくうのなが
のちりべし
詩は春とり侍のまへあひよあひくらま也深
の棠花のまよとあうもそりらり
一はあぢらめろあくまらあまそ人月うくむら
もそ必もちのよはちらぐとこらちり
一まの音さえはる 春の響轉弄花一名天
長室壽系と云 一はらりちん整そそこの
調度の中よ海松と一さくそあつるあり基

あつてさあやまはちかきとよも二の都は餅大根福
とゆふ也。餅ハ近江の火さうれマウれ餅を用也。
則其國の鏡山の弁を詠む。

一はつぬあさめづきあさめづき人のゆて文書弁を
よむと云ふ

一花はあれつゝ俗は妙法
一方等燈の中ハ

經の中ハ四教とありて多きは既多なり是律名
經也。げ時昔のさうらふとつふよ。今はさうらふと
と云ふ。不化の不生。亡法と云ふ。一會の衣生
を空清れして加葉泣てとめふさうらふと云ふ。男へ

聲威をさうらふと云ふ

一ははとらふべ。皓朝おはつとも羽翼已成と云

はちちちを放出と云ふ。花を不詮寢殿

と云ふ。母屋にゆて。かきとけ。中と隔て

か換ちちと云ふ。つと下流也。は恨障子

まをへらる。中のと云ふ也

一八系式の中の出方。仁明天皇の子。本康親王と。

此上の父文ははして云也。花名を委

一花のなはちちあ。校と。早下のゆと云ふ

袖ハ。姫君のさあれ。焼物なれば。神はあささうらふ

神生

三十一

トと也

一夏のいびのぬき袋

すまじら袋也。三枚の束をいびのぬきの袋のすまじら袋

と也。ぬきは袋のいびのぬき袋のすまじら袋

一はかり子が鏡子がゆあにまらひらるおねの納

受らひらまらまらまらまらまら

一夏のぬき袋のすまじら袋

一夏のぬき袋のすまじら袋のすまじら袋

一夏のぬき袋のすまじら袋のすまじら袋

一夏のぬき袋のすまじら袋のすまじら袋

一夏のぬき袋のすまじら袋のすまじら袋

一夏のぬき袋のすまじら袋のすまじら袋

一夏のぬき袋のすまじら袋のすまじら袋

一夏のぬき袋のすまじら袋のすまじら袋

一夏のぬき袋のすまじら袋のすまじら袋

一夏のぬき袋のすまじら袋のすまじら袋

一夏のぬき袋のすまじら袋のすまじら袋

一夏のぬき袋のすまじら袋のすまじら袋

一夏のぬき袋のすまじら袋のすまじら袋

一夏のぬき袋のすまじら袋のすまじら袋

一夏のぬき袋のすまじら袋のすまじら袋

トと也

すまじら袋也。三枚の束をいびのぬきの袋のすまじら袋

と也。ぬきは袋のいびのぬき袋のすまじら袋

一はかり子が鏡子がゆあにまらひらるおねの納

受らひらまらまらまらまらまら

一夏のぬき袋のすまじら袋

一夏のぬき袋のすまじら袋のすまじら袋

一夏のぬき袋のすまじら袋のすまじら袋

一夏のぬき袋のすまじら袋のすまじら袋

一夏のぬき袋のすまじら袋のすまじら袋

一夏のぬき袋のすまじら袋のすまじら袋

一夏のぬき袋のすまじら袋のすまじら袋

一夏のぬき袋のすまじら袋のすまじら袋

一夏のぬき袋のすまじら袋のすまじら袋

一夏のぬき袋のすまじら袋のすまじら袋

一夏のぬき袋のすまじら袋のすまじら袋

一夏のぬき袋のすまじら袋のすまじら袋

一夏のぬき袋のすまじら袋のすまじら袋

一夏のぬき袋のすまじら袋のすまじら袋

一夏のぬき袋のすまじら袋のすまじら袋

ものひさしをなすてまはしむるがごとく
ふらふらぐし

ほ

一ほへ本まじり也

一ほまきかきふ神也

一ほふ火神也

一ほうららの山是るを

物ともあらぬをまてき一ほうけつさ
ほ法めさ也

一ほゆがめそまきよもこころ
ぬ也方曲也

一ほなりくも

一ほのくに毛ほのくも

一ほくまきと新法よまき
今か時かまきこれ
これとくもいふ

一ほのめすは

我のほへはへいもまき

一ほのほまらふらくもまき
後真入法真永不

一ほのほまらふらくもまき

一ほのほまらふらくもまき

ほまほのほまらふらくもまき
ほまほのほまらふらくもまき

法花三昧とこまらふらくもまき
法花三昧とこまらふらくもまき

法花三昧とこまらふらくもまき
法花三昧とこまらふらくもまき

法花三昧とこまらふらくもまき
法花三昧とこまらふらくもまき

法花三昧とこまらふらくもまき
法花三昧とこまらふらくもまき

法花三昧とこまらふらくもまき
法花三昧とこまらふらくもまき

法花三昧とこまらふらくもまき
法花三昧とこまらふらくもまき

一 部さるごとく四月交雲外語三更後雷声
 一 仏のいとうありしころ少く 凡そ其出世の本意
 一 凡聖一如 然る不_レ二の理と_レ流て衆生の身も
 一 速_ニ断_ルん_ニと_レそ_レめ_ニ大_ニ也_ニと_レり
 一 色_ノが_レよ_レも_レ実_ニ報_ル花_ノ王_トと_レて_レ花_ノ嚴_ニ經_ニ流_ル流_ル
 一 づ_レあ_レも_レ法_ノ持_ルま_レり_レと_レや_レら_レく_レる_レぞ_レと_レら_レば
 一 了_レて_レお_レけ_レた_レも_レを_レの_レり_レ仏_トも_レ報_ル身_ノの_レ流_ルと_レて_レ終_ルの
 一 報_ル少_クて_レ是_レ又_レう_レり_レさ_レ形_ニま_レて_レ流_ルの_レ三_ノ更_ノ唯_ニ
 一 劣_レ法_ニち_レれ_レば_レ仏_ノの_レ心_トと_レり_レと_レ也_ニ
 一 ぼ_レく_レと_レほ_レん_レち_レう_レ 仏_ノの_レ内_ニ也_ニお_レも_レれ_レて_レも_レれ_レ

則_レ善_ノ提_ル則_レ煩_ル悩_ル也_ニ 純_ニ上_ニ実_ニ相_ノ少_クて_レ更_ニ別_ノの_レ法_ト
 一 ぼ_レく_レと_レあ_レぬ_レ驚_ルま_レぬ_レ也_ニ 一 ぼ_レく_レと_レび_レの_レり_レく_レと_レの_レ指_ノ握_ル
 一 本_ノと_レ定_ル法_トと_レも_レ 一 ぼ_レく_レと_レす_レべ_ク玉_トと_レ女_ト
 一 ぼ_レく_レと_レあ_レ 一 ぼ_レく_レと_レり_レあ_レれ_レる_レ也_ニ
 一 ぼ_レく_レと_レあ_レ 未_レ過_ル女_ノの_レさ_レう_レり_レと_レあ_レぬ_レ也_ニと_レも_レれ_レ
 一 ぼ_レく_レと_レあ_レ 善_ノ后_ノ連_ル女_ノの_レさ_レう_レり_レと_レあ_レぬ_レ也_ニと_レも_レれ_レ
 一 ぼ_レく_レと_レあ_レ 一 仏_ノの_レさ_レう_レり_レと_レあ_レぬ_レ也_ニと_レも_レれ_レ
 一 ぼ_レく_レと_レあ_レ 常_ニ住_ルけ_レ不_レ滅_ル也_ニと_レ流_ル法_ト也_ニ不_レ滅_ル
 一 ぼ_レく_レと_レあ_レ 子_ノ連_ル一_トと_レく_レと_レ尼_ト云_ルの_レ心_トと_レ

一年うらりて文の法とて 藤巻云 藤園のま
三おまを也 一おののまをり 大政

大内内大臣新白郷良のま

一とりのゆのよつこ 筆取由也ゆのま也 左のよ

あそ 絵とよまも 一とりの 年忌 一祝也

こは 十よつことも也 法奉満

一年月つごらとねれどあまらむじかふれ け何

未摘巻は同むづくれまどくん為よせんかか

の事とともり 一とりのまをり 一とりのま

むづらゝのまをり 一とりのまをり 一とりのま

後へどけらに枝監とてしれちをどけらとつてしと

あそんち也監とつらんまもとあそていれはた

けらまもちと御もと書つて弄とてあそての事

と我返弄あそていらと監とつら也じまも

弄とてあそめやにんまもとつら也

一とりの月と拾遺集は紫の歌あり

一歌のぐ花やうに ちんちん一飛酒香もちのま

は感じて花は鳴鶯も他の水もと鳴らうとこ

一とりのまをり 花とぬらふ遊と云ちり

一とりのまをり ちんちん 一飛酒香もちのま

たれと云況もる年よりくらく声也

たれと云況もる年よりくらく声也

たれと云況もる年よりくらく声也

たれと云況もる年よりくらく声也

行人也

たれと云況もる年よりくらく声也

たれと云況もる年よりくらく声也

たれと云況もる年よりくらく声也

たれと云況もる年よりくらく声也

たれと云況もる年よりくらく声也

たれと云況もる年よりくらく声也

一行也

一行也

一行也

一行也

一行也

一行也

一行也

一行也

一行也

一行也

一行也

一行也

せんせ

一たけがらに臆病の色

一はをどい 源氏のとどろきとて 貴族よりとて

はのまこといふも也 一たけこよよたのすかき

源也いふとなくいふとくも也

一たけ君子がこ 常れ袍は袴と着して裾

をいふのつねも也 袴とくくくも

ちたけまもいふべし ちたけいふも

とぞの心たかき人し ちたけいふも

のすこちもいふも 又もたけすかき

ちたけいふもいふも 源内侍と

源氏のいふもいふも ちたけいふも

一たけいふ 男いふも也 一たけいふも

も花村いふ女親子内親主 天延三年いふ

多ままて下向し 後いふ女主 重明親王い

てくくもいふもいふも ちたけいふも

子女王いふもいふも ちたけいふも

あひしひて下向の例 ちたけいふも

一たけいふもいふも ちたけいふも

万が女日本記し女 一たけいふもいふも

一たけいふもいふも ちたけいふも

八雲

下

一 松尾のええへ 晉王位 眞石室山見 教童子 國
 一 暮子 眞物 如東 核人 曼不 飢局 定路 行
 一 押欄 尽 時 後 時 人
 一 松尾のええへ 眞石室山見 教童子 國
 一 暮子 眞物 如東 核人 曼不 飢局 定路 行
 一 押欄 尽 時 後 時 人
 一 松尾のええへ 眞石室山見 教童子 國
 一 暮子 眞物 如東 核人 曼不 飢局 定路 行
 一 押欄 尽 時 後 時 人

一 松尾のええへ 眞石室山見 教童子 國
 一 暮子 眞物 如東 核人 曼不 飢局 定路 行
 一 押欄 尽 時 後 時 人
 一 松尾のええへ 眞石室山見 教童子 國
 一 暮子 眞物 如東 核人 曼不 飢局 定路 行
 一 押欄 尽 時 後 時 人
 一 松尾のええへ 眞石室山見 教童子 國
 一 暮子 眞物 如東 核人 曼不 飢局 定路 行
 一 押欄 尽 時 後 時 人

一 松尾のええへ

一 暮子

交をあるのまんぢらとつら

一たうくを政大氏内大臣轉大政大臣例中義

么はねを例多法抄よ委

一たひすがひ決りくのち也あひつてとらん

一たれらうすくよちるるれ

一たわたるさ臆病也不字もれはれらう

一たうけけぬらう終ちやくすも源氏の院

一たうけけぬら也一たうけあまの者

日浦而不溢とられせよ也

一たうけけぬらとら ちたの駢射は

る也中が得ハ不射也六象院中てね林だる
よのうて的を射らう一たうけけぬらとら
さめん頃の後乃名ハけらるとも内大臣とら
君とあしとらひあてらとらんと。駢射

一をくことごうのとも

大業二美若得為久聾聾盲瘖狂謗欺

經故權罪如是 一たうけけぬらとら

論語曰子游曰孝子曰今之孝者是謂能養

至於犬馬皆能有養不敬何以別乎

一をとりあひゆて 用病多教也

大業

論語

一 たりんむら 中道八玉への通海あり

一 たりんむらすま 多八果は二夜あつてぬ物とせ

玉と鴨子みよはとそ 仰の二不覺はたとふり

一 たりんむらす 思願一むとちててててて

れ 下第いさるも也 ありちてててててて

るれどどとらハヤマゴトとたなもれぬふん

一 切灯をともてててて

一 女のこととてちんうー 元今も 元寛平 建永

一 たりんむら 先年於女事有元先

一 たりんむら 府公政大にちるれぬ

一 たりんむら 元寛平 建永

一 たりんむら 元寛平 建永

一 たりんむら 元寛平 建永

一 たりんむら 元寛平 建永

一 たりんむら 元寛平 建永

一 たりんむら 元寛平 建永

一 たりんむら 元寛平 建永

一 たりんむら 元寛平 建永

一 たりんむら 元寛平 建永

一 たりんむら 元寛平 建永

元寛平

建永

びり也

一をさくしりるんり地

一人の心成るはあまたなるてのまかり

一たきんていをききとてあはれはきりしりるんり

一りり年せびりての文字の心成るんりるんり也

一松は奇の結句なる 後崇光院
山平也

二女の身はこれあまなり 我も人ともある

一 相本 一たのけりもたもちりるんり 親の孝ははま

一 相本 一たのけりもたもちりるんり 親の孝ははま

一 相本 一たのけりもたもちりるんり 親の孝ははま

一 相本 一たのけりもたもちりるんり 親の孝ははま

一 奇文也 一たのけりもたもちりるんり 親の孝ははま

一 奇文也 一たのけりもたもちりるんり 親の孝ははま

一 奇文也 一たのけりもたもちりるんり 親の孝ははま

一 奇文也 一たのけりもたもちりるんり 親の孝ははま

一 奇文也 一たのけりもたもちりるんり 親の孝ははま

一 奇文也 一たのけりもたもちりるんり 親の孝ははま

一 奇文也 一たのけりもたもちりるんり 親の孝ははま

一 奇文也 一たのけりもたもちりるんり 親の孝ははま

一 奇文也 一たのけりもたもちりるんり 親の孝ははま

一 奇文也 一たのけりもたもちりるんり 親の孝ははま

新嘗會

豊明節會

青櫛

十一月

おまへとふらふ。Kinnom云物体云するあり

一 伝名 カブミヤク 義和二年十二月十九日始之云今

ハ吉日撰ウリ 手自文 一 志野川流の所云と

へ又物のまはりのうす字あり。作まらへんとも

ありす。こゝろいふ今も一 馬ヤク 畢竟無始云

の理云 手竹中 一 ありてバ 意をちこと

一 従まらん カハ 一 一 カハ ありて カハ ありて

れん カハ 一 カハ ありて カハ ありて カハ ありて

人自ある カハ ありて カハ ありて カハ ありて

一 カハ ありて カハ ありて カハ ありて

一 地云 一 一 一 一 ありて 一 ありて

て 一 ありて 一 ありて 一 ありて

の 一 ありて 一 ありて 一 ありて

れ 一 ありて 一 ありて 一 ありて

一 一 ありて 一 ありて 一 ありて

一 一 ありて 一 ありて 一 ありて

一 一 ありて 一 ありて 一 ありて

の 一 ありて 一 ありて 一 ありて

の 一 ありて 一 ありて 一 ありて

の松原を鬼食人は是則大怪也

一夫うしのそく 日本記 冥蒙

一なまをくし けりやハ我ハ何のあそぶも

一なまをくし けりやハ我ハ何のあそぶも

一女のまぢよ 法華經云 又菩薩摩訶薩不應

一花女人力取執生欲相而為說法多者

一女人說法不露齒笑不現會臆乃至為法

一不親厚况復餘事

一にはなれざる 賢のすまはれざる物也

一花はくの 出家ハ世の上のあそびあはれざる

らをいふとそくをいふと後うさく 経納あこと

一なまをくし 老也 一をの物もろろなる也

一なまをくし 老也 一をいふはまして也

一なまをくし 老也 一をの 已也

一なまをくし 老也 一をの 已也

一なまをくし 老也 一をの 已也

一なまをくし 老也 一をの 已也

一なまをくし 老也 一をの 已也

一なまをくし 老也 一をの 已也

花

花

アそくしんじん 一たはへべ 熱也。古今に

と云ふ事あり也。何とまらるん

一たはへれ 志。柘。総。舞。一。何。困。案。の。心。を。老。れ

とれどま

一たはけり方 かけら也

一たはけりさ ち。様。多。心。一。を。も。ら。え。り。百。あ。る

一たはけりさ ず 不。少。海

一わらわ

一わらわく 河 志。別。日本記 至被

一わらわく 舞。舞。一。わ。ら。わ。り。舞。下。也

一わらわく 一。わ。ら。わ。り。舞。下。也

一わらわ

一わらわ 至也

一わらわ 伊。舞。舞。伊。舞。舞。舞。の。内。時。令。舞

一わらわ 諸。案。案。の。案。上。は。至。定。也。あ。る

一わらわ 琴。あ。ら。ま。ま。し。と。し。と。し。也。略。也。明。化。云。和。琴

一わらわ 元。八。月。六。日。と。非。至。て。用。け。り。と。後。は。琴。に

一わらわ 作。り。と。也。一。わ。ら。わ。り。と。舞。舞。也

一わらわ 瘧。病。疾。也。之

一わらわ 世。信。ま。を。ら。り。と。と。り。と。れ。り

一わらわ 王家。と。等。倫。手。舞。と。也。姓。を

一わらわ 企。賜。平。人。也

一わらわ 一。わ。ら。わ。り。と。り

一。わ。ら。わ。り。と。り

一。わ。ら。わ。り。と。り

一。わ。ら。わ。り。と。り

またあそびうらやまのまよひ

一から物ほらうらやまのまよひ。或は物と
まよひ。呼見るとあるべし。林園のまよひ。うらやま

ふもと。わさりとまよひ。一風よあつてはまよひ

胡馬嘶や風越鳥。南校馬なり。胡玉の敷也。

仍小風よあつてはまよひ。鹽をまよひしてはまよひ也。

一うらやまのまよひ。花廣凌散。琴の秘曲なり。

嵯康つ華陽の歌あり。林よあつてはまよひ

ふ曲也。び林人の首の冷傷の變化也。

一かすのほり格大納言。祓負令云大納言二人云

今の文のまよひ。人のみかへりかちれば

格の字とらうらやま也。寛平遠滅のまよひ

うらやま格官あるまよひ也。まよひ格のまよひ

はらまよひ格の字とまよひ。源氏格

大納言とらうらやま也。中は八人格十人

まよひ。一かへり格よつてはまよひ

人まよひ。一かへり人十つ。十刻とハ

東遊のまよひ。人十人らまよひ。あまよひ

おとまよひ。林園のまよひ。関白のまよひ。春日

らまよひ。社政やまよひ。あまよひ。あまよひ

九条上

〇八十五

駿場まで馬をもちゆくまゝのつひにたむを
の窟人乞とひとむに懽楽時糸をといひた
れ雲客群人より源氏の表は皆まうてまを
系人十列と具しあへるるるべし
一かつこれの内の事つとまひびて花長徳二年
八月内宿中堂殿千時辞たたね同日童六
人為随東三年十月九日勅賜たたねを随府
生各一人を随各三人為随力但傍童子
今あるまゝに随力まうてひびてひくまを
このりひひするらひみとされどそのお教の

久しお見ちるし水干るるべしやうにたぬるるべしや
随力とつんとりやあごのたをまへにやそれ
もくくちるち花様とくゆり守中堂殿ハ六人
と刃をとりたれハ十人あり又鼈公童随力
随力。國史ちどまもまうまへまへまへまへ
住とぬるまるとらへべし。ば物清はまゝハ郎花様
ちるべし一源内洗一かつりりまゝやのじ
唐守蘇姑射刀自。莊子蘇姑射山づれ
古物清也一かつらんくくちるく
とらん方ちまへまへ。ば何ふ明石れ表の冬也

九上

〇八十六

一かんやがまはうくはびをりて時をりて張
らる也。紙糸の人ゆて色紙すまひ世とる也。
くはれに唐綺せうれ守也

一かまのうまりまそく紙とつぎてまされぬ
のちうもとあへひもくそ也。首の緒はあ
かま一也。上の河は中絶もももんとそくす。
ははせゆはへあひうき紙糸とつこのまわ
れはうもとあへひもくそ也。拾遺すの
一かま。糸義公紙糸よあま馬ひのあま
のころちり 俗よまこくこもくも也。罽也

一あつはらるべさうすあつと昇
と人やうらうらとの糸もや。又桂院席はす
るしよこもらうや 一かりはたぞ、吹たうそ
の糸糸糸と今ま也。糸位の糸糸也

一かろじちもどきたにらる也。柯子先毒
一かどひらびもとあひして 井 杖好のまこい
て保氏の二門と驚也。もん時也
一神とびるのう年月のらう 保の久志と
暮のめと云。柿岡又柿宿上久志の
又久 又久也 一柿とびらととる也

霧雲これ流。枕園交らむとの美よりうさせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

一かきつめそ男もよみおのあせ

なつりよ命とつらるとさへり

一かのぬらうとさるちちるは寂ゆは嫁合は異

必は川とりにすこころは深むとゆいよとさる

えらうハらねたハ密通の由也

一かこのやうもて父子と云形也

一かりれ子の鴨子かともとりともさる相通也

一かえり荷葉交のさき也まハ梅花杖ハ氣

竹は冬ハ玄方一かすこざらねとさ

月夜を霞ふとてさるもさるんとあべしよこ

糸と感してつら一かんかのも船名よ本

何時起てゆ人西原とて見世がけ和唐ハ

万葉日本記の奇なり極也

一かうさくゆめさる河也遺迹けらさく同ん

一かさしてもさるの名ハあひと云杉種ハ夕

貴女と久草生あてあるとさる杉種ハ夕

夜崑山丘也今ハ課試及解之支也

風くくの葉の用也博士よさる也

一徳と月れ九日あさりのはとん六多院よ約子

る康保二年十月廿三日村上天皇行幸朱

萑院は俗とらひてある

川奇紙あり
唐織物の小紋也
一かゝるものあり

春日^{カスガ}の伊勢^{イセ}あり
一かゝるものあり

中^{ナカ}まの必^{ヒツ}友^{トモ}氏^{ウヂ}あり
一かゝるものあり

はの^{ハノ}背^セ物^{モノ}と^トい^イひ^ヒき^キ
一かゝるものあり

一かゝるものあり

一かゝるものあり

一かゝるものあり

一かゝるものあり

一かゝるものあり

一かゝるものあり

あつちや^{アツチヤ}義人^{ヨシト}が^ガ将院^{シャウエン}を^ヲハ^ハ別^{ワケ}に^ニ分^{ワケ}つ^ツ

の^ノけ^ケま^マつ^ツる^ルお^オも^モい^イし^シと^トい^イひ^ヒび^ビび^ビ

乃^ノ飛^{トビ}鳥^{トリ}の^ノ身^ミ中^{ナカ}ま^マと^トい^イひ^ヒび^ビ

一か^一ん^んち^ちを^ヲわ^ワら^ラう^ウこ^コう^ウん^ンち^チを^ヲど^ドか^カの^ノこ^コと^ト

云^{クニ}ゆ^ユ也^ヤ

一か^一ん^んち^ちを^ヲわ^ワら^ラう^ウこ^コう^ウん^ンち^チを^ヲど^ドか^カの^ノこ^コと^ト

和^ワ元^{ゲン}年^{ネン}国^{クニ}三^{サン}月^{ゲツ}十^{ジュウ}日^{ニチ}夜^ヤ宴^{エン}舟^{フネ}系^{ケイ}奏^{ソウ}酣^{カン}醉^{サイ}系^{ケイ}

舞^{マヒ}人^{ニン}四^シ人^{ニン}と^ト又^{マタ}河^{カハ}水^{スイ}系^{ケイ}と^ト云^{クニ}流^{リウ}と^ト

一か^一ん^んち^ちを^ヲわ^ワら^ラう^ウこ^コう^ウん^ンち^チを^ヲど^ドか^カの^ノこ^コと^ト

又^{マタ}あ^アり^リし^シ花^{ハナ}の^ノ流^{リウ}は^ハ流^{リウ}と^トい^イひ^ヒび^ビび^ビ

一か^一ん^んち^ちを^ヲわ^ワら^ラう^ウこ^コう^ウん^ンち^チを^ヲど^ドか^カの^ノこ^コと^ト

